



紀勢国道事務所
広報誌 創刊号
JUNE/2026



特集 事務所長インタビュー & 紀勢国道事務所
IMASYUN 尾鷲防災フェア & ゲート操作訓練
連載 国交省の仕事【紀勢線のメンテナンス】



紀勢国道事務所
CXプロジェクトロゴ

「地域から頼りにされる存在に」

井上 英俊 事務所長



-事務所長としての抱負を教えてください。

一番は事務所職員が健康で楽しく仕事ができるようにしたいです。地元の皆様からの信頼を得るには、まずいい環境でいい仕事をする事が大切と思っています。

-これまでの職歴の中で特に印象に残っているのは。

名古屋国道事務所での管理第二課長時代です。それまでの職務は計画の仕事が多く、維持管理に携わるのは初めての経験でした。

維持管理は事故が起こってからでは遅いため、異常があったときは直ぐに現場に出て、施工業者と相談して復旧を目指しました。責任を持って携わることが出来ました。特に大晦日に大雪が降り、正月を職場で迎えたことは印象に残っています。

-仕事を進めるにおいて特に大事にしていることは。

自分で考えて、理解して、腹に落としてから進める。中途半端に進めると応用が利かなくなってしまうです。

経歴

平成5年 建設省新丸山ダム工事事務所採用。本局道路部計画調整課長、本省国土政策局地域振興課を経て現在に至る。岐阜県出身。趣味はさんぽ、読書。

「命の道」「時間短縮」、道路の役割を意識

-紀勢地域における道路の役割を改めて教えてください。

道路にはそれぞれの使われ方、役割があります。国土交通省で造っている紀勢道などは幹線道路としての役割があり、県道、市道は生活道路としての役割があります。それぞれの役割分担が重要と考えています。紀勢国道管内は、ネットワークが弱い部分があるため、幹線道路をしっかりと整備し、そこから地域の方々の暮らしを踏まえた生活道路を整備していくことが大事と思っています。

国土交通省としては、「命の道」「遠方への時間短縮」「災害時の避難路」など、道路の役割を意識しながら、必要となる道路をしっかりと提供していきたいです。

-災害時における道路の役割を教えてください。

日常生活はもちろん、災害時においても道路は必要なものです。災害時には、人命第一と考えたときの道路の位置付けを考え、避難路までの確実な経路、それを支援するための経路、物資の輸送などの役割を担っています。災害時に道路は途切れてはダメで、ネットワークとして繋がっていることがとても大事。災害時の道路啓開(※)をしっかりと検討して、途切れているところを繋げていく必要があります。

自分で考え、様々な側面で捉える

-技術者や公務員を目指す若者に伝えたいことは。

自分で物事を考え、いろいろな側面で物事を捉えて欲しいと思っています。

話は少し逸れますが、例え話として「桃太郎」を考えてみます。キジ、猿、犬はきびだんごをもらっただけで命懸けで戦ってくれたのでしょうか。普通に考えるとききびだんごだけでは割に合わないと思います。キジ、猿、犬達は、「悪い鬼を退治する」という桃太郎に共感し、同じ目的を持ったからこそ運命を共に出来たのだと考えています。

一方、別の視点で考えると、本当に鬼は悪いのか、自分で確認せず噂を信じて鬼退治をしているのではないのか、との見方もあります。もし鬼が悪者ではなかったら鬼からしたら鬼退治は大迷惑な話です。ここで言いたいのは、周りの話を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て考え、状況を分析して様々な側面で捉え、自分で確認して進めることが大事だと考えています。



インタビュアー
入省2年目 岩瀬事務官。
趣味は卓球。



(※)道路啓開:災害などで通行不能になった道路について、人や物資が通れる状態にするための応急的に整備する取り組み

-過去の災害で印象に残っているのは。

採用2年目の1995年1月の阪神・淡路大震災の時が印象に残っています。被災後に現地調査に行くと、橋脚が倒れ、街が焼けている状況でした。特に何が出来るわけでもなかったですが、被災状況を肌で感じる事が出来ました。この経験は今でも生かされていて、その後現場に行った際には、今ここで被害が発生したことを考え、何が出来るのかを考えるようになりました。

-インフラ整備の魅力は

インフラ整備は裏方の仕事と考えています。主人公である地域の皆様が豊かになるために、裏方で地域を支えていくところに魅力があると思います。

国土交通省は日本国内を見ている省庁です。国土を創りあげているという自負を持って仕事に取り組めることも魅力です。

-紀勢国道管内と紀勢国道事務所の将来像についてどう考えていますか。

紀伊半島の先端で人口は多くはありませんが都会とは違い自然豊かな地域であり、資源が多くポテンシャルは高いと感じています。地域の皆様が幸せに暮らせるための整備をしていきたいです。

また、雨が多い地域であり、昨今の雨の降り方が変わってきている状況の中で、何かあった時に地域から頼りにされる存在となっていきたいです。

歴史の道、暮らしの道、いのちの道 ぐるっと紀勢を巡る道をつくり、 守っています



事務所の歴史

1961年に尾鷲市で建設省紀勢国道工事事務所として発足。1972年に松阪市郷津町に移転。2006年に現在の鎌田町に移転。

特集2 紀勢国道事務所

事務所の概要

紀勢国道事務所は国土交通省の出先機関で、松阪市内に本事務所、大台町、尾鷲市、熊野市に維持出張所（紀勢線推進室含む）があり、国道の管理事業及び改築事業を実施しています。

管理区間は三重県松阪市から三重・和歌山の県境の紀宝町に至る187.9kmの幹線道路です。この中には、「一般国道（現道）42号」（松阪市～紀宝町）、「国道42号松阪多気バイパス」、「紀勢自動車道」（尾鷲北IC～紀伊長島IC）、「国道42号熊野尾鷲道路」（尾鷲北IC～熊野大泊IC）が含まれます。

改築事業は、「松阪多気バイパス」「熊野道路」「紀宝熊野道路」があります。

事業の役割・取り組み

自然災害に強く、より安全に通行できる道につくりかえるとともに、三重県中南部地域と東紀州地域の幹線道路ネットワークの新たな構築を進めています。これらの道路は、人や物の移動を支え、地域の暮らしや産業、観光を支える大切な基盤となっています。

また、災害時にも交通機能を確保できる道路づくりを進めることで、緊急時にも人や物資を運ぶことができる、いわゆる「いのちの道」としての役割を強化しています。

観光・地域資源とのつながり

東紀州地域は、熊野古道をはじめとする自然や歴史に恵まれた地域です。道路ネットワークの整備により、中京圏や関西圏とつながる広域ネットワークが形成され、観光地へのアクセスが向上しています。これにより、多くの人が訪れやすくなり、地域のにぎわいづくりにもつながっています。

今後に向けて

今後も【もっと強く、もっと安全に、もっと豊かに】を目指し、誰もが安心して利用できる道路づくりを進めていきます。「いのちの道」として地域を支えながら、将来にわたって安心して暮らせる地域づくりに貢献していきます。



ちびっこ防災フェア 一災害対策車両を展示一



会場の様子

5月2日、尾鷲市において開催された「ちびっこ防災フェア」に、紀勢国道事務所も参加しました。

当事務所からは、災害時に活躍する照明車のほか、道路パトロールカーや凍結防止剤散布車両を展示しました。

会場では、これらの車両の運転席に実際に乗り込める体験コーナーを設け、多くの子どもたちが興味津々の様子でした。

また、TEC-FORCE隊員の子どもも用制服の試着体験も実施しました。

消防や警察、自衛隊の制服体験は比較的なじみがありますが、TEC-FORCE隊員の制服は珍しく、子どもたちはもちろん、保護者の方々からも大変好評でした。

親子おそろいの制服で、会場は終始和やかな雰囲気になっていました。

今回のイベントを通じて、防災への理解を深めていただくとともに、国土交通省の仕事に興味を持って社会を支える人材が育っていくことを期待しています。

通行止め訓練 一豪雨時に備え通行止め訓練を実施一



ゲート操作訓練の様子
荷坂ゲート（大紀町大内山）

大雨による災害から道路を利用する皆さまの安全を守るため、国道42号の一部区間では、一定の雨量に達した際に通行止めを行う「事前通行規制区間」を設けています。

本格的な梅雨入りの前に、大雨に備え、現地に設置された遮断機（ゲート）の操作方法を確認する訓練を実施しました。

国道42号のゲートは遠隔操作が可能です。訓練では現地での操作手順を確認するとともに、離れた事務所から遠隔操作手順も確認し、現地との連携体制を確認しました。

尾鷲市での訓練は雨の中での実施となりましたが、実際の通行止めを想定したより本番に近い状況での実践的な訓練となりました。

- 4月21日 荷坂ゲート（大紀町大内山）
- 4月23日 南浦ゲート（尾鷲市南浦）

▶ 異常気象時 通行規制の詳細



紀勢国道HP
道路管理事業

連載：国交省の仕事1 紀勢自動車道のメンテナンス



橋梁点検の様子

5月11日～13日、18日～20日の期間、紀勢自動車道・熊野尾鷲道路において集中工事を行いました。

▶ 集中工事の内容

- トンネル、橋梁、各種設備の点検・メンテナンス
- 事故で損傷した防護柵などの復旧
- 薄くなった区画線の引き直し
- 排水機能を保つための側溝清掃

これらの作業は一般車両が通行している状況では安全かつ確実に実施することが困難なため、全面通行止めのもとで計画的に進めています。

紀勢自動車道・熊野尾鷲道路の延長45kmの区間には、トンネルが19本、橋梁が66橋と非常に多くの構造物があり、数の多さからも「紀伊半島の山間部を貫く道路」という特長が伺えます。

橋梁やトンネルは5年ごとに1回、詳細な点検を行い健全性などを確認することが法律で義務付けられています。

5年ですべてのトンネル・橋梁のメンテナンスサイクルを行うため、集中工事において計画的な点検を進めています。

次の集中工事は10月頃を予定しています。

通行止めへのご理解・ご協力
ありがとうございました

次号の予定

- ・熊野大花火大会
- ・尾鷲維持出張所 & 熊野維持出張所
- ・熊野エリアの工事状況
- ・国交省の仕事



編集記

紀勢国道について知っていただくきっかけになればと思い、「みちいろたより」を立ち上げました。今後も担当者一同で、「伝わる」発信を意識して取り組んでいきます。

表紙写真：松阪市朝田町～上川町
（松阪多気バイパス）



広報誌名称「みちいろたより」は「道路」の「みち」、「色々な」の「いろ」、「お知らせ、ご縁を込めて」の「たより」を意味しています。皆様に受け入れてもらえるよう親しみを込めてひらがな表記と、道路をひとつにつなげるデザインとしています。当事務所職員が考えデザインしました。

国土交通省中部地方整備局 紀勢国道事務所

松阪市鎌田町144-6

■紀勢国道事務所に関することは
総務課 TEL0598-52-5360

■契約に関することは
経理課 TEL0598-52-5361

■公共用地取得に関することは
用地課 TEL0598-52-5362

■工事に関することは
工務課 TEL0598-52-5363

■調査・計画・設計に関することは
計画課 TEL0598-52-5365

■道路管理事務に関することは
管理第一課 TEL0598-52-5366

■交通安全、維持修繕に関することは
管理第二課 TEL0598-52-5367

■国道42号、松阪多気バイパスに関することは
大台維持出張所

TEL0598-82-1169

多気郡大台町大字上三瀬字中通289

■国道42号、紀勢自動車道、熊野尾鷲道路
尾鷲維持出張所

TEL0597-22-1312

尾鷲市矢浜岡崎町123-1

■国道42号、熊野尾鷲道路に関することは
熊野維持出張所

TEL0597-89-2721

熊野市有馬町5821

■熊野道路・紀宝熊野道路に関することは
紀勢線推進室

TEL0597-89-2724

熊野市有馬町5821（熊野維持出張所内）



HP



X



インスタグラム